

平成20年10月24日

No. 336

理研会報

9月26日（金）に、平成20年度印旛郡市理科作品展の審査会が、印旛教育会館で行われました。本号では、27日（土）の一般公開の様子と、審査に携わった先生方からの講評について掲載いたします。

郡理科作品展審査の様子

9月26日（金）は、郡理科作品展の審査会を開催しました。

運動会等の諸準備のため多忙な時期でありましたが、多くの先生方が時間をかけて慎重に議論し審査を行いました。



審査の講評：科学工夫作品の部

<小学校科学工夫作品の部>

沼田 正信 先生（佐倉市立佐倉東小学校）

今年度の作品展では、ゴムの弾性や磁石の性質等、学校での既習学習を発展させた作品や、身近な素材を用いた作品が、多くありました。学校での理科学習の深化・発展という観点から、とても良いことだと思います。動くおもちゃは、新しい発想の作品もありましたが、今までの作品の原理を更に改良した作品が多くありました。

また、図工的にも優れ、おもしろい作品もありましたが、あまり華美になりすぎないようにしたいものです。いずれにせよ、これからも、発想の豊かさを表現する作品が、多く出品されることを

願っています。

また、実験や観察器具の開発作品（星座の観察、電気の実験等）も出品され審査員の興味をひきました

バラエティーに富む作品で、今年度も審査員一同、楽しく審査させていただきました。来年度も、たくさんの科学工夫作品が出品されることを期待しています。

<中学校工夫作品の部>

片瀬 実 先生（成田市立久住中学校）

今年初めて中学校工夫作品の審査委員長を務めました。委員の先生方と一緒に9点の金賞（郡金賞1を含む）を選びました。作品を選ぶ時に考えたのが「発想のおもしろさ」でした。

- ・ふだんの生活体験の中から、「こんなものが欲しいな。」というものを作品にしている。
- ・もう製品になっているけど、「こんな使い方はできないかな。」という切り替えを作品に盛り込んでいる。
- ・昨年の作品に、「こんな工夫を加えてみたよ。」と改良している。

このような作品が賞に選ばれました。

来年も、ちょっとした発想の転換から生まれた楽しい科学工夫作品を期待しています。

審査委員の先生方、ご協力ありがとうございました。

審査の講評：科学論文の部

<小学校科学論文の部>

静間 慎一 先生（成田市立平成小学校）

日常生活の中の疑問を追求したり、発想を工夫したりして根気強く取り組んだ作品が多く見られました。

また、審査の結果、金賞に選ばれた作品は高学年では仮説や予想をしっかりと立て、計画的に実験に取り組んでいました。低・中学年では自分が調べたいことについてわかりやすくまとめられて

いました。

「ダンゴムシ」の研究が低・中・高学年いずれにもあったのは、絵本や教科書の影響かと思われ
ます。今後も自然や生活、科学との関わりを大切
にした作品が出品されることを願っています。

<中学校科学論文の部>

松田 治久 先生（白井市立桜台中学校）

中学生科学論文の部には各部会から選ばれた43
点の力作が寄せられました。

飛来する白鳥を毎年観察し、生態と環境に関連
づけて飛来数の減少の理由を考察したり、スズメ
の死骸が自然の中でなくなってしまうことを不思議
に思い、その疑問を解決するために、鯛の死骸
を様々なところに放置し、他の小動物によって分
解されることを確かめるなど、身近な自然や現象
をテーマにしたものが多くありました。

自由研究をするときに大切なのはテーマ選びで
す。身の回りの自然や現象に目を向け、何気ない
ことに疑問を持ち、それを解くことにより新しい
発見や次の大きな疑問につながるものです。

審査の講評:標本の部

<小学校標本の部>

渡貫 健 先生（白井市立清水口小学校）

各部会での審査を経た48作品の力作を審査させ
ていただきました。全般に「家族で楽しみながら、
がんばってやったんだな。」ということが感じられ
る作品が多数あり、微笑ましく感じました。中には
審査員が、ぜひともメッセージを送りたいと思
わせた努力作品もありました。

入賞作品はやはり「ラベルに日時・場所・採取
者等をきちんと記載する。(全般)」「展翅などの処
理をしっかりとる。(昆虫標本)」「セロハンテープ
でなく紙テープを使う。押しがしっかりしている。

(植物標本)」といった基本的なことがしっかりし
ており、同じような対象物でも、さらにワンラン
ク上の作品となっていました。

また、「クモの巣」「各地の砂」「鳥の羽」を採取

した作品もあり、標本としての対象の幅の広がり
を感じました。

<中学校標本の部>

小野 哲 先生（四街道市立四街道北中学校）

中学校の標本部門は、出品数は14点と少なかっ
たものの、精選された作品ばかりでした。植物標
本が多かったのですが、中には鶏などの骨を扱っ
たものやキノコなどの新たな挑戦をしたものもあ
りました。昆虫が1点と寂しい気がしますが、ひ
と昔のように、小さい頃から虫取りに興じる環境
が減少していることを考えると、仕方がないかも
知れません。手間のかかる標本作りに取り組む意
欲を持つような自然大好きな子ども増やしたいと
願います。

郡理科作品展の様子

9月27日（土）の一般公開日には、運動会を実施
している小学校
もありましたが、
350名近くの来館
者がありました。
家族連れも多く、
300点を超える優
秀な作品を前に、



「すごいなあ」という感想も多く聞かれました。
なお、郡の審査会で金賞に輝いた児童・生徒の作
品は、印旛地区理科研究部のホームページでも掲
載しておりますので、是非、ご覧ください。

印旛地区理科研究部ホームページアドレス

<http://rikainba.or.tv/index.html>

事務局より

審査に携われた先生方有り難うございました。
印旛地区の児童生徒による自由研究が益々発展し
ますよう今後も宜しく御願いたします。